

木

KINO PRESS
NO.43

記憶と記録

学長◎島本 浣 SHIMAMOTO Kan

これは今年度(06年)の秋期卒業式で少し話したことの続きである。続きを書きたいのは、時間的なこともあって考えていたことをちゃんと伝えられなかったからである(秋期卒業生のみなきんすいません)。どんな話かといえば、表題にある記憶と記録についてなのだが、いっても、大脳生理学あるいは哲学的記憶の話ではなく、また記録といってもIT時代のそれではない。ちょっとした人生的な記憶と記録についてである。

ふたつの言葉はずっと前から気になっていた。しかし、記憶と記録ということが、何か生き方といったことを考えるきっかけとなったのは、ひとりのラグビー選手のインタビュによってだった。スポーツ観戦好きなので、けっこうスポーツ新聞や雑誌はチェックしている。そのひとつ「ナンバー」という雑誌のある号に、村田互(わたる)という全日本のS.H(スクラム・ハーフ)をつとめていた選手のインタビュ記事があった。そこで村田選手が語っていたのが「記憶と記録について」なのだった。

野

京都精華大学
KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

通

本誌通信 第43号2007年1月25日発行
京都精華大学広瀬館3階
〒606-8588
京都府左京区岩倉木野町137
TEL. 075-702-5197

信



「Sign」 辻田 麦 202S015

ラグビー好きの人なら彼が玄人好みのプレーヤーであることは知っている。東芝からフランス・バイヨンヌ(生ハムが有名な町だ)、そしてヤマハとチームをわたり、三八歳の現在でも現役プレーヤーとして活躍している(なんと昨年も代表に招集された)。一七二センチと小柄だが、敵の大型フォワードの間をすり抜けていくスピードに強い印象をもつファンは少なくない。もちろん、有名選手である。その村田互が雑誌で次のようなことを言っていたのだ。

「僕の目標とする選手の理想像は、記録に残るといふより、試合を見てくれた人の記憶に残る選手なのです。」こんな内容だったと思う。その当時でさえ記録に残るほどの選手だったにもかかわらず、こうして考えてあることに驚いたのだ。そのとき初めて、生きるというレベルにおいて記憶と記録がどうしたことなのかを考え始めたのである。

記憶と記録とは意味合いが重なっているにもかかわらず、その本質は決定的に違う。細かな議論を飛ばしてしまえば、記録は社会的な記憶であり、記憶は私という存在に関わるきわめて個人的な経験の痕跡

であるということだ。大きな社会の単位で考えれば、記録は重要なオリンピックでメダルをとることは国のレベルでは大切なことだろう。しかし、記録が必ずしも人を変えたり動かしたりするわけではない。村田互という名S.Hは、選手のありかたとして記憶の方を選んだのである。それは彼のプレーのひとつひとつが見る者の身体を震えさせる、そうしたラグビーをやりたいということだろう。その姿から新たなラグビー少年も誕生してくるだろう。

ほくたちは記憶によって何かに駆り立てられるのではないのか。その記憶は、ほくたちの身体の届くところで作動する。もっとも近いところでは家族、友人、恋人といった存在がある。記録に残ることはきわめてまれたが、記憶はほくたちの存在に深く関わり、ある意味で人生を決定していく。大きな物語ではないが、生きるというそのことに関わるのだ。京都精華大学は、そこに集う者にとって、そうした記憶の作動する場としてありたいと思う。

NEWS

「特色GP」に3年連続、3回目の選定

人文学部・考えるための「日本語リテラシー」教育

京都精華大学の教育取り組みが、2004年度、2005年度に引き続き、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に3年連続で選定された。2006年度の「特色GP」には、学士課程で220件の申請のうちから国立大学16件、私立大学15件の合わせて31件が選ばれた。京都の大学では、同志社、京都外国語、京都精華の3大学のみ。3年連続で選定された大学は、全国でも山口大学、慶応義塾大学、京都精華大学のわずか3校だった。

「特色GP」は、文部科学省が2003年度

に始めた教育改革の支援事業。全国の大学のうちから優れた教育取り組みを「Good Practice (GP)」として選定、その教育実践について財政的支援を行い、社会へ広く情報提供することにより、教育の改革を促進することを目的としている。現在では、大学の教育内容に対する信頼性の高い第三者評価として、「現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）」や「21世紀COEプログラム」などと並び、大学の實力の証、大学選定の新しい基準として注目されている。

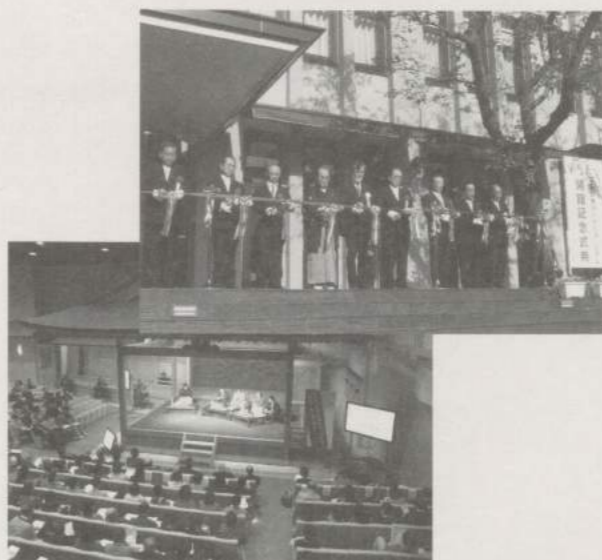
「読む・書く・考える」力を育成する「日本語リテラシー」
今年度「特色GP」に選定されたのは、人文学部の1年生全員を対象とした「日本語リテラシー」の取り組みである。「日本語リテラシー」は、学問の土台である「読む・考える・書く力」を育成する教育実践。学生が文章を読むことや書くことを通じ、教員・チューターとの密接な対話関係によって、思考力と表現力を高めていく、本学が生み出した画期的な初年次教育プログラムだ。この科目は、大学における学びの準備に位置づけられる。

初期段階で学生の考える力を一挙に高め「自ら調べ、思考し、表現する」自立した学習者への足がかりをつけることを目指している。ここで身につく力は、大学での学びにおける「文献を読む」、「講義を聴く」、「調査でインタビュー」するといったさまざまな場面を支えるものとなっている。

NEWS

京都国際マンガミュージアムが開館

日本初の総合的なマンガの博物館



2006年11月25日、本学が京都市との共同事業として開設準備を進めてきた「京都国際マンガミュージアム」が開館した。開設地は京都市の中心地である中京区の龍池小学校跡。オープニング特別企画展「世界のマンガ展」に開館を待ちわびた多数の来場者が訪れた。

他、高畑勲（アニメーション映画監督）、寺脇研（元文化庁文化部長、日本漫画家協会参事）、夏目房之介（マンガコラムニスト）ら3氏。400人の聴衆を前にミュージアム設立の経緯や今後のミュージアムに対する期待などについて語り合った。

約20万点、2008年には30万点以上の蔵書数を見込んでいる。また館長には、解剖学者で東大名誉教授の養老孟司氏が就任し、注目を集めた。建物も昭和4年建造の旧・龍池小学校の校舎を活用し、当時のたたずまいを残した外観と内装が好評だ。今後も、マンガ文化の拠点として、マンガの収集・展示に加え、調査・研究、ワークショップやセミナーなどマンガに関するさまざまな催しが行われる予定だ。

NEWS

京都インターアート美術学校との合併に合意

学校法人インターナショナル学園を吸収合併

京都精華大学は、京都インターアート美術学校（京都市左京区）の母体である学校法人インターナショナル学園を2008年3月に吸収合併することに合意した。

京都インターアート美術学校は、学生数の減少などによって厳しい経営状態となり、来年度の学生募集停止

止と2008年度末の閉校を決定した。在籍している学生が卒業するまでの教育的義務を果たすことを第一に考え、2006年1月に、本学に支援を要請。両校で協議を重ね、2006年10月、合意にいたった。京都インターアート美術学校は来年度の学生募集を停止し、現在の1年生が卒業する2009年3月に閉

校する。閉校までの期間、本学がその運営を支援し、京都インターアート美術学校の母体である学校法人インターナショナル学園を2008年3月に吸収合併することとなる。閉校後の京都インターアート美術学校の校舎は、本学の教育を充実させる施設として役立てる予定だ。



NEWS

AGIデザイン総会 本学で開催

AGIデザイン総会 本学で開催

2006年9月26日から30日の5日間、AGI（国際グラフィック連盟）のデザイン総会が、京都と東京の2都市にて開催され、京都会場となった京都精華大学のキャンパスでも多彩な催しが行われた。

AGIは、1952年にフランスで創立された、グラフィックデザイン界で最も伝統的かつ国際的な団体である。現在は世界の第一線で活躍する31カ国320名のグラフィックデザイナーによって構成され、本部はスイスにおかれている。毎年、異なるホスト国が総会を主催し、その国の文化、歴史、メンバーの作品、そして専門的な観点から芸術、ビジネス、教育などの業績が紹介されてきた。今回、日本では18年ぶりの開催となり、浅葉克己（本学デザイン学部客員教授）と福田繁雄の両氏がオーガナイザーを務めた。

韓国元文化大臣であり「じゃんけん文明論」の著者として知られるイ・オリョン氏による基

調講演を皮切りに、日本の伝統文化である浮世絵版画・水引・風呂敷を演説紹介する講演会が開かれた。また学内のギャラリーでは、海外作家57名、日本作家19名の「掛け軸」の形に仕上げた作品が披露された。

その後、比叡山に移動して、ソール・パス氏、亀倉雄策氏、田中一光氏など著名デザイナーの「AGI法要」を延暦寺阿弥陀堂でとり行い、夜には本学の学外施設である「観山閣」で、AGI会員の作品プレゼンテーションや、パフォーミングなどユニークな催しが開催された。

イベントには、デザイン学部の在学生らが運営ボランティアとして参加し、世界の著名なデザイナーの話を楽しむとともに、デザイナーたちの素顔に接する貴重な機会となった。



NEWS

アセンブリアワー講演会

浦沢直樹氏、小林武史氏など豪華ゲストが続々と登場

各界の第一線で活躍する方を講師に迎え、文化、芸術、社会の広いジャンルのテーマで開催している「アセンブリアワー講演会」。前期に続いて、後期も豪華ゲストが続々と登場している。

10月にはフリープロデューサーの木村政雄氏、梶川泰司氏の講演会が開催。11月にはマンガ家の浦沢直樹氏とマンガプロデューサーの長崎尚志氏の対談が行われた。

「YAWARA!」 「20世紀少年」などのヒット作で知られる浦沢氏は「マンガ家は大変な仕事。マンガ家をめざすなら、売れる作家」になる野望を持ち、手塚治虫さんなど、過去に描かれたマンガをしっかりと勉強してほしい」と話した。また、音楽プロデューサーの小林武史氏

と映像監督の丹下紘希氏が登場した「ap bank dialogue」も11月に開催。環境問題に対して、生活に身近な音楽や映像を切り口にアプローチした「エコとクリエイション」についての話に、在学生を中心とした大勢の参加者が熱心に耳を傾けていた。

話がつか



浦沢直樹氏の対談には800名の参加者があった

SPECIAL EDITION

調査・研究から人材の育成、
新産業の創出、文化の創造まで
多彩な新機能で社会に大きく貢献する
次代型ミュージアム

1. 資料の調査・研究

所蔵資料によるマンガ文化の調査や研究を行う。また、国内外の学術研究機関や地域施設、ほかのマンガ施設との共同調査や研究に積極的に取り組み、資料の共有と相互活用、情報のネットワーク構築を図る。さらに、実作・編集・出版などの現場関係者も加えて、研究の応用化も追究していく。

- マンガの歴史・文化の調査・研究
- マンガの学際的・総合的研究
- 国際レベルでの学術的な探究に貢献

2. 博物館・図書館の展開

マンガ資料の体系的な収集を行い、データの整備を進めていく。現在、所蔵する日本の貴重な歴史資料、現代の人気作品、世界各国の名作など約20万点に、江戸時代以降の関連資料、海外のマンガ本、雑誌、アニメーション等を新たに集め、2008年までに30万点以上をめざす。

- マンガおよび関連資料の収集・保存
- 資料の閲覧・データの検索
- マンガの文化・研究に関する展示

3. 研究者・専門家の育成

これからのマンガ文化を担う研究者や専門家の養成拠点としての機能も重視している。研究プロジェクトへの参画、成果の発表、資料の公開、情報ネットワークの構築などによって研究者や学生の研究を支援。また、クリエイターの養成にも積極的に取り組み、学芸員・司書技能のカリキュラムも提供していく。

- 研究者や学生の研究支援
- クリエイターの養成
- 学芸員・司書の育成

4. 新産業の創出

新たな芸術分野であるマンガは産業振興においても大きな可能性を秘めている。国内外のマンガの社会的な活用事例を収集し、その効果や課題を検証しながらコミュニケーションツール、産業コンテンツとしてのマンガ活用モデルの研究・開発を推進する。

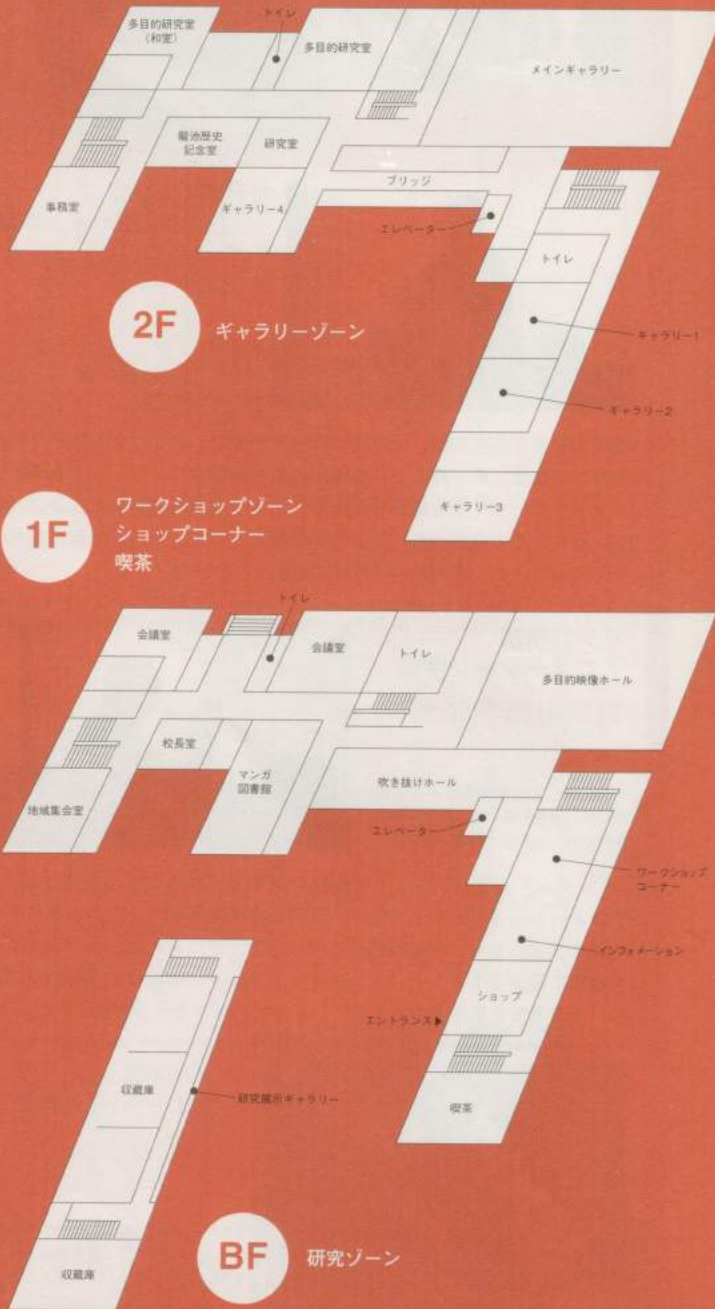
- 産・学・公連携によるビジネスモデルの研究・開発
- 観光誘致の推進
- ミュージアム施設・機能の研究・開発

5. 生涯学習・文化の創造

京都市が誘致して2008年に開催される「国際マンガサミット(国際漫画家大会)」をはじめとするマンガ文化を通じた国際文化交流。世界各国からの研究者や留学生の受け入れ、交換留学などの制度化をめざす。また、地域社会の人々に向けたワークショップ、講座なども実施していく。

- マンガを通じた国際文化交流
- 幼児・児童を対象にした学習プログラムなどの開発
- 地域社会に向けたワークショップ、各種講座などの開催

京都国際マンガミュージアムが開館



●京都国際マンガミュージアム <http://www.kyotomm.com>
〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル 京都市営地下鉄 烏丸線・東西線「烏丸御池」駅2番出口すぐ/京都市バス・京都バス いずれも「烏丸御池」停留所下車すぐ



2006年11月25日、京都国際マンガミュージアムが京都市中京区の烏丸御池にオープンした。元小学校の校舎を生かして整備したミュージアムは、国内外のマンガに関する資料を総合的に集め、イベントも開催していく。マンガ文化の一大拠点として、世界へ向けて情報を発信する。



大学と京都市の共同事業として開設
京都国際マンガミュージアムは、京都精華大学と京都市の共同事業として、閉校された元龍池小学校の跡地を活用して開館された。ミュージアム開設のコンセプトは公民共働の考え方に基づき、本学と京都市が計画を策定、京都市が土地・建物を提供、本学がミュージアムを管理・運営し、研究成果やノウハウを提供するものだ。マンガ・アニメーションを体系的に研究し、生涯学習、観光誘致、人材育成等への活用を図るため、資料の収集・展示・保存を本学と京都市が共同で行い、その成果を地域社会の文化活動に対しても還元・貢献できる形態は、他地域の先進事例になるものと注目されている。

京都精華大学では1973年の美術科マンガクラス開設以降、芸術学部マンガ学科開設(2000年度)、表現研究機構マンガ文化研究所開設(2001年度)、マンガ学部開設(2006年度)の実績が示すように、30年以上にわたってマンガ文化の教育・研究を行い、学問としてのマンガ研究をリードしてきた。特にマンガ文化研究所では、マンガとアニメーションに関する学術的研究を多角的に行い、日本マンガ学会(会員数約300名)の設立と運営に積極的に支援し、研究基盤に必要な人的・情報ネットワークの形成を推進してきた。これらの教育・研究実績およびネットワークはすべて京都国際マンガミュージアムの中核を担う「国際マンガ研究センター」に活用され、その進展を支えている。



京都精華大学「国際マンガ研究センター」を併設

客員教授による特別講義



デザイン学部とマンガ学部では、第一線のデザイナーやアニメーション監督を客員教授に迎え、授業を行っている。一流のクリエイターたちの生の声は、学生たちに大きな刺激やはげみとなっている。2006年の後期に客員教授による特別講義が多数行われた。ここでその一部を紹介する。



デザイン学部
プロダクトデザイン学科
堀木エリ子先生

和紙アートディレクター。和紙インテリアアートの企画・制作から施工までを手がける。

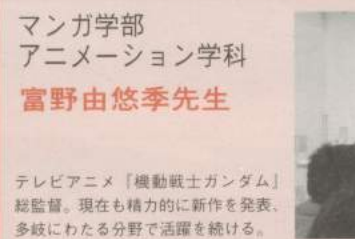
商業空間から公共施設、さらには舞台美術まで、さまざまな空間で和紙の新しい表現に取り組んでいる堀木先生。進行中のプロジェクトのコンセプトやエピソードを紹介しながら、インテリアに関わるビジネスの実際を語り、その発想の膨らませ方や企画の立て方、そして仕事に対する考え方について、学生たちは熱心に聞き入っていた。



デザイン学部
ビジュアルデザイン学科
タナカカツキ先生

マンガ家、映像作家として幅広く活躍中。著書に『バカドリル』、『オックス! トンコちゃん』、映像作品集『SUNDAY』など。

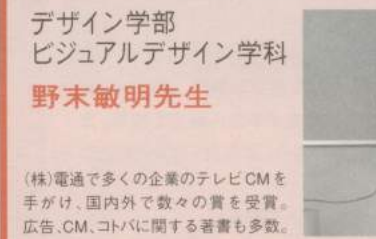
京都精華大学在学中にマンガ家デビューしたタナカカツキ先生は、学生生活を振り返りながら、デザインや制作に対する心構えについて、そして最近の映像作品を観ながら、コンテンツビジネスについて話した。爆笑エピソードで大いに盛り上がった講義の後は、学生に対して個別にアドバイスも行った。



マンガ学部
アニメーション学科
富野由悠季先生

テレビアニメ『機動戦士ガンダム』総監督。現在も精力的に新作を発表。多岐にわたる分野で活躍を続ける。

『ガンダム』の生みの親として幅広い層から支持を集める富野先生が、アニメーション学科の1年生に2日間の特別講義を行った。つくり手をめざす学生たちへ、終始情熱的な語り口で「アニメとは、リアルタイムを観客に要求すること」、「エンタテインメントとは何かを徹底的に研究し、その本質を見きわめてください」などのメッセージが送られた。



デザイン学部
ビジュアルデザイン学科
野末敏明先生

(株)電通で多くの企業のテレビCMを手がけ、国内外で数々の賞を受賞。広告、CM、コパに関する著書も多数。

野末先生の「広告批評講座」では、「世界各国の広告からみるビジュアルの訴求力」をテーマに講義を行った。観る人の心に訴えかけるCMやポスターとはどういったものなのか、先生自身が手がけてこられた多くの企業広告を見ながら、作り手・受け手の両方の観点から、具体的に解説された。



マンガ学部
アニメーション学科
りんたろう先生

日本アニメーションを代表する監督の一人。代表作に『銀河鉄道999』、『幻魔大戦』、『メトロポリス』など。

りんたろう先生の特別講義ではアニメーション学科での講義に加え、公開講演会「日本のアニメーション：その過去・現在・未来」も開かれた。講演会では『鉄腕アトム』の誕生を起点に、日本独自のアニメ表現のスタイルが確立した過程などについて、アニメーションの進歩・発展に立ち会って来られた先生ならではの視点でトークが繰り広げられた。



デザイン学部
ビジュアルデザイン学科
山本容子先生

銅版画家。書籍の装丁・挿画を手がけるほか、アクセサリーや食器、舞台衣装のデザインまで幅広く活躍中。

抜群の構成力と印象的な色づかいで、独自の銅版画の世界を確立している山本容子先生の特別講義「アート批評講座」では、ご自身の作品を学生時代から振り返って、作品を生み出す背景にあったエピソードが語られた。また講義終了後の質疑応答では、学生たちから次々と飛び質問に答え、暖かいアドバイスを送っていた。

活躍する卒業生

丸く切り取られた明るい画面の中を、ゆったりと浮遊するミカヅキモ。ちょこちょことエコーラスに動くワムシ。いつか生物の教科書で見たような水中の微生物が現れては「ボコン」「バリバリ」と不思議な音を立て、動き回る。そうか、これは顕微鏡の世界！ 次は透き通った緑のアオミドロがからみ合うミクロの森。そこをまるで潜水艇で探検するように、ぐいぐいと前進する。次々に目の前に広がる神秘的な光景から目が離せない。

これは映像コース卒業生の小沢さん、西殿さん、森さん、八百さんたちのグループ「微生物II」が制作した『微生物の世界』の一部だ。水中にすむ微生物の映像にCG処理を加えた映像作品。ユニークな世界観と、CGと実写を巧みに融合した技術力が評価され、2006年夏の「長崎水辺の映像祭」で見事グランプリを受賞した。また、この作品は他にも4つのコンペで立て続けに入選や受賞を果たし、周りをあっと言わせた。

『微生物の世界』は、授業のグループ制作から生まれた。最初のメンバーは、小沢さん、西殿さん、八百さん。八百さんが自宅の動物病院にある電子顕微鏡をよく触っていたことから発案した。まず川や田んぼの水を採集し、その中で面白い生態を持つ微生物を顕微鏡で撮影し、カラー加工を施し、ストーリー性をつけて編集した。その後、音作りの際に森さんを巻き込み、4人でバイオアート集団「微生物II」を結成した。受賞の知らせを聞いた時は「僕らがグランプリでいいんですか?」とびっくりしましたと森さん。長崎の授賞式には4人で行った。卒業後、久々だったそとで「4人で集まる機会が減っていたので、学生に戻ったみたいで楽しかった」。

この秋は栗東で行われたアートイベントに『微生物の世界』を鑑賞できる顕微鏡装置の他、プロジェクトによる映像投影とパフォーマンスに挑戦し、好評を博した。「僕らの活動は映像がベースだけれど、触れる「要素や」実物を置く「ことも好きなので、色々な展示会に顕微鏡持参で参加したいですね。今後も、好奇心をモットーに作品をつくっていききたい」。

4人は個人でも精力的に展示やコンペ受賞の経験を重ねている。この春、小沢さんは東京の大学院に進学。八百さんはアニメーションの制作を続け、西殿さんと森さんは会社勤めと制作を両立していくつもりだ。(森さんの談話をもとに編集)



上・『微生物の世界』の一場面
左・「長崎水辺の映像祭」の授賞式・長崎にて。『微生物の世界』の他の受賞歴は以下の通り。
[2006 Asia Digital Art Award / 入賞] [BACA-JA2006・映像コンテンツ部門/佳作] [みんなの映画プロジェクト・CAFF2006水辺部門/グランプリ] [ART BEAT KYOTO 2005 / ART BEAT 賞]

「長崎水辺の映像祭」環境芸術部門 グランプリ・パールドラゴン賞 他
微生物II (小沢貴弘さん/西殿謙一さん/森陽史さん/八百悟志さん) 芸術学部デザイン学科映像コース卒業

シェル美術賞2006年度グランプリ受賞 田中洋喜さん 芸術学部造形学科洋画コース卒業

新しい表現の可能性に挑戦する若手作家の発掘を目的とした「シェル美術賞」。2006年度、1357点の応募作品の中から、洋画コース卒業生の田中洋喜さんの作品がグランプリを受賞した。「短距離走を思わせる急激に前傾した若い男のシルエットのみを接写したかのようなグランプリ作品は、必要なものを描く、その思い切りのよさで異彩を放っています」と評された受賞作のタイトルは『春雷』。田中さんによると「からだのバネを確かめているところ」だそう。

高校時代はイラストレーターになりたいと思っていた。絵画の基礎や考え方をしっかりと学んでからイラストを描きたいと思い、また、画材の質感や、表現の幅広さにひかれて、油絵を学ぶことを選んだ。入学前の京都精華大学のイメージは「混沌としていて、しぼられていて、おもしろそう」。「入学してみたら、そのイメージ通りでした。大学で学んだことはいろいろあるけど、一番大きかったのは洋画コースの先生方の制作に対する考え方で、油絵にしろ水彩にしろ、いろいろな画材が、画法がある。絵画にしろ水彩にしろ、立体でも制作はできる。制作しなくてもいい、制作以外にも表現する方法はある。いろんな道が開けているなかで、そのやり方でいいのか? ということを、授業や課題を通して何度も問いかけられました。そのたびに、「自分でこのやり方を選んだ、自分で美術の道を選んだのだ」と自覚させられたんです。それは大学卒業後、仕事と制作活動を両立させるときに大きな支えになりました。仕事を終えてからアトリエへ向かい、キャンパスの前に立つための気持ちに切り替えるのが難しかったのですが、自分の「描きたい気持ち」が弱まっていなかったことを確認できた。描くという行為に対してシビアでありたいと思うし、自分の作品に対しても冷静でいられるところは、自分の強みだと思っています。

12月で仕事を辞め、制作に打ち込める環境をつくらうと決めた矢先の受賞の知らせだった。「最初は手のこんだいたずらかと思いましたが、携帯電話からかかってきたから。受賞作が印刷されたポスターが送られてきたときにやっと実感がわいてきました。受賞は大きな励みになりますが、同時にプレッシャーも感じています。自分が鑑賞者として、こういう作品が観たかった! と思うものが描けるまで描くと思う。いろんな人に支えられて描いてこられたことを忘れずに、これからも描き続けていきたいと思います。」



シェル美術賞2006
グランプリ受賞作
『春雷』
145.5 X 145.5 油彩・キャンパス

活躍する卒業生

2006年度芸術学部 卒業・修了制作展

芸術学部と芸術研究科による卒業・修了制作展を、京都市左京区の岡崎公園内にある京都市美術館にて開催いたします。学生たちが学びの集大成である卒業制作を発表します。ぜひお立ち寄りください。



第37回 京都精華大学 卒業・修了制作展'06
会期 1月31日(水)
〜2月4日(日)
会場 京都市美術館本館
※市バス「京都会館美術館前」下車すぐ。または地下鉄東西線「東山駅」下車徒歩10分。

卒業式・入学式のご案内

2006年度卒業式、2007年度入学式を左の日程で予定しています。

2006年度学位記授与式

日時：2007年3月21日(水・春分の日)

9時30分開場／10時開式

場所：本学体育館

※地下鉄国際会館駅よりスクールバスを運行します。お車でのご来場はご遠慮ください。

2007年度入学式

日時：2007年4月2日(月)

9時開場／10時30分開式

場所：国立京都国際会館メインホール

※地下鉄国際会館駅から徒歩5分。お車でのご来場はご遠慮ください。

「shin-bi」からのお知らせ

京都精華大学が運営するアートのスペース「shin-bi (シンビ)」では、京都精華大学が教育機関として携わってきた多くの要素をベースに、アート、デザイングッズ・書籍などの販売や商品やイベントなどの企画・プロデュース、展覧会・上映会・ワークショップの開催などを行っています。

◆shin-bi 販売用商品の募集◆

shin-biでは、卒業生の作品を多数販売し好評を博しています。現在も引き続きアーティストグッズや書籍、映像作品、テキスト、工芸品など、商品として販売する作品を募集しています。アート・デザイン指向の強いものであれば1点もの、マルチプルを問わず歓迎します。なお、作品中に新たなビジョンやオリジナリティが感じられるものを優先的に採用しています。



タイトル、サイズ、希望価格など作品の詳細を明記した書面に、作品の写真を添付してご郵送ください。

郵送先 〒600-8411 京都市下京区
烏丸通四条下ル水銀屋町620番地 COC
ON 烏丸3F 京都精華大学shin-bi

『KINO』好評発刊中

京都精華大学情報館が編集・発行するワンテーママガジン『KINO』の第3号が好評発売中です。第3号のテーマは「よそさんにはわからない京都の正体」。対談・インタビュー特集では「京都ネイティブが語る我が京都」と題して、

京都出身や京都在住の「ネイティブ」な人々が、ガイドブックでは触れられていない京都の真実について語っています。ほか、観光客があまり行かない「京都市街地近代建築ガイド」や、「京都の学食ガイド」「京都のお土産徹底研究」など情報が満載です。

『KINO』は全国有名書店で発売中。購読に関する問い合わせは河出書房新社まで。



木野祭の中止について

今年度の秋の学園祭「木野祭」は11月1〜3日の予定でしたが、11月3日未明、学外からの来訪者に本学学生を加えた乱闘騒ぎが発生し、負傷者を出すに至りました。これを受けて大学ならびに大学祭実行委員会は、緊急に協議し、再発を防止する有効な手立てがなく参加者の安全を確保することが困難と判断し、やむなく祭の中止を決定しました。11月3日は、朝から大学祭実行委員会の指示のもと、参加者の協力を得て、イベント・各模擬店等の片付け作業が円滑に進められました。当日の来訪者の方々にはご迷惑をおかけいたしましたことをお詫びいたします。

施設整備および教育研究事業充実に関する募金についてのご案内

施設の充実、教育・研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金は一口5万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せください。この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進

法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。詳細のお問合せや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室(075-702-5201)までお願いいたします。

お詫びと訂正

以下の誤植がございました。お詫びして訂正します。

木野通信42号 最終ページ

2005年度消費収支計算書・2006年度消費収支計算書
消費支出の部 当年度消費収入超過額
← 当年度消費支出超過額

当年度消費支出超過額